
俺の夢は魔法使い

ポチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

俺の夢は魔法使い

【NNコード】

N1286N

【作者名】

ポチ

【あらすじ】

熊本のとあるアパートに住む伊明紘人^{いめいひろと}15歳は

ある日課題であつた作文で夢を発表。だがその夢は魔法使いとゆうありえないものだった。

クラスメイトや先生に馬鹿口された挙句異世界にいける（かもしけない）鍵一亞空間転送keyをとられしかたなく家にかえった。この日から紘人の人生は大きく変わつていった・・・

第1話 俺の夢（前書き）

ぶつひやけ初めてなんでつまんないかもですが、じつは暖かい田で見
守つてやつてください

第1話 僕の夢

『魔法』それは誰もが一度は使いたいと思つたもの
だが時がたつにつれそんなものはゲームやテレビだけ……と分かつ
てしました

キンコ ンカ ンコ ン

休み時間の終わりのチャイムが鳴る。

次の時間は確か……国語だ！ ふつ！ そうかついに俺の夢語る
時がきたのか

ぜつてえ皆んな俺の夢に感動すつだらうな……

「」の間の課題の『自分の夢』について発表してもらひ。 そうだな

……

紳人！

おお！ いきなり俺！

悪いな皆んな……俺の夢を聞いたあとは全員の夢が色あせちまうぜ

！

「はい！」

「僕の夢……それは！ 偉大な……魔法使いになることです！」

第1話 俺の夢（後書き）

主人公の名前の由来

伊明紘人 Ichir?ume. (ドイツ語でわたしは夢見る)

イヒトロイメ 並び替えて伊明紘人

ネーミングセンスなつ！とかやうのは心の中にしまってやつてください

さいへく

第2話 異世界（前書き）

2話めつづけて（？）投稿（、・・・）

第2話 異世界

たく……

なんだよ……俺の素晴らしい夢を聞いて皆んな自分の夢が色あせち
まつたからってあんなに俺の夢を否定しなくても……
全くやだね～自分の夢が俺と比べて小さかつたからって……

俺の……俺の……

大事な……

魔法のある（かもしけない）異世界に行ける（かもしけない）虚空
間転送 k e yまでなくしやがって！！

ハア～

とつ……いろいろ考てるうちに家通り越しちまうといじだつた
にしても散々な一日だつたな～

ガチャ

鍵をさして扉を開ける。

「 ただし

」

家に帰つたらただいま～と母によく言われていたため一人暮らしで
もきちんとめん
じくさがらず言つ。

だが今回は紺人意外に居るはずもない部屋から声が帰つてきた。
紺人の声をさえぎつて……

「 さやあああああああああああああああああああああああああああ

あ、あれ～？

あ、あの部屋間違えますよ

目の前には風呂上がりなのか裸で服を来ている人・・いや猫(?)の耳が生えた

人に近い生き物がいた。うん！胸が膨らんでいることから女か！だ
がまだまだ未発達なことから少女と推測！ ハあハ……
とか工口イことかんがえてる暇ねえよ！

たしかにここは俺の部屋のは、ず……ちげええええええええ
えええ！ ！ ！

まてい！ なんなんだあ？ここはたしかに俺の部屋の鍵であけたは
ず！ (視線手)

うそ……だろ？

まちがつて亜空間転送keyつかつちまつたあああああああ
あああああ！

「おい！いつまでそこにいる氣だ！！」

思考錯誤してゐるうちに服を来た猫耳かめいりをはやした少女(これ以降萌え
萌え・・いやなんでもない……)が俺に向かって叫ぶ。

「貴様はいつたいなにものだ！」

と猫耳女は言う。

「え、えつと、俺は紳人、伊明紳人いめいひると

つてあれ？自己紹介するふいんきでもないな？

「あ、私はフロー、狼の獣人だ！ ……じゃなああい！
なに人に自己紹介させてるんだ！」

以外にも自己紹介してくれた……そつか、猫じやなくて狼だったの
か……

や、やばくね？なにこの子……獣人で……ゲームじやあるまいし

「あはは・・面白い冗談だな、獣人だなん

な、なんだろう物凄い笑顔なのにこの威圧感……

「冗談？そつか、冗談に聞こえるか、『バキッ』この耳本物だけど
な、『ミシッ』

「なんなら狼らしく君を引きちぎってたべてあげようかあ～？」
ボキバキッ』

『怖い！…てゆうか痛い！喋りながら僕の腕を握り潰しちゃつて
るよこの子…

「こぎやああ！… 痛い！ 痛い！ つすすいませんした～！～！～！

『

「まつたく！ で？ 君はなんで私の家にいるんだ？」

うわ～この人俺の腕握りつぶしたくせに悪気すらないのかよ…
「えと～… カクカクシカジカなわけで異世界のここについたのか
と…」

とりあえず事情説明

フローの顔が少し険しくなつたのは亜空間転送keyの名前をだしてからだつた。

「…君が言つているその亜空間転送keyはもともとこの世界の
異世界について

研究していた者達が作ったものだ…なぜ別世界の住人の君が持つて
いる？」

何言つてんだこいつ？

「この鍵『亜空間転送key』は俺の…俺の住む世界の親父が作
つたもんだぞ？」

「…君は本当に異世界の住民なのか？この世界の住民ではないの
か？君が父と思っている

人は本当に君の父なのか？魔法でもない限りそんなものはつくれ
ない！ 作れたとしても

どんな技術を使えばそんな小さな鍵の状態まで縮めることができる

るへ。」

「な、なにいってんだよ！　この世界の住民っ、ふざけんな！　俺の親父は伊明鑄虞（いめいいるぐ）だけだ！　親父は俺がうまれてからずっとこの研究をしてたんだ！　鍵みたいに

小さくする時間だつてあつたはずだ！」

俺が親父の名……伊明鑄虞の名前を出した瞬間フロ　の顔つきが変わつた……

まるで「獲物」をみるよつた顔に……

第2話 異世界（後書き）

早速も感想で指摘を受けてしまったので指摘された箇所を直してみました。いつもみると話がすごい唐突すぎて訳が分からぬるものだったことに…

なので話の内容がとてもなく変わっております(・・・)
これでも最後らへんはちょいと話が唐突になつてしましました…
指摘してくださつた方本当にありがとうございます♪

第3話 伊明鑄虞（前書き）

鑄虞の名が出たとたん顔つきが怖くなつたフロー。 一体何が？
今日は鑄虞のお話。

第3話 伊明鑄虞

ぐ……鑄……鑄虞！

……？

なんだ？

声が……聞こえる……

「おー鑄虞！　ここから出しててくれ！」

誰だ？わざわざまでフローーと話していたはず……

……？

フローー？誰だ……それは？

鑄虞……

アあソソアダワタシはイるべ……

「鑄虞！　ほつとしてないでここの檻をどうにかしてくれ！」

「ああ……すまない」

Flame verbrennen DrachenGes

tal t (炎、燃やす、竜の姿で)

ルンを呑く。

次の瞬間「コッ」と音をたて竜の姿をした炎が声がした方向に飛んでゆく。

ジユ つと音を立て声を発した生き物を閉じ込めていた大きな檻を溶かす

「あぶねーなー」

檻の中に閉じ込められていたのは身長は一㍍二㍍はあるだらう大男。

体はどんな攻撃でも筋肉だけで防げそうなほど立派な体であちこちに古傷がある。

顔は……鬼といつてもまちがいではあるまい。

「たく……もう少し加減しろー。俺はお前とちがって魔法耐性が高くなーんだ！」

2㍍の大男は怒鳴る……

「すまない……」

「らしくないじゃないか。普段は任務中は常に冷静でどんな罠もすぐに対応できる前が

急にボーとし始めたと思つたら魔法をぶっぱなしまくつて敵に見つかり捕まるなんて……

おまけに正気に戻つたと思つて出した途端にまたボートして……

どうやらこの大男は私の仲間のようだ……ふむ、だんだん頭がはつきりしてきたぞ。

ああそうだつた！ 任務を始めたはいいが急に頭に声が響いてきたんだ。『亜空間転送key』

たしかにそう聞こえた……。今回の任務の目的もその鍵の奪取だつたな……

ひとりの青年の姿もあつた……『亜空間転送key』……やけに心に引っかかる。

いつたい

「またボートとするー。」

ビック！

うるさいやつだ……

「耳元で叫ぶ奴があるか！ おかげでせっかく整理していたことがわからなくなってしまったではないか！」

「……おい、念のため聞いたくが俺の名前は？」

鬼のような顔をちかづけてくる。

「知らん」

きつぱり答える。

大男はまたか……みたいな顔をし

「何回忘れりや 気が済むんだ！ 3年も一緒に組んでるところのこ

……
いいか？俺の名は鬼利丸きりまる！ 種族は鬼人だ！！」

鬼利丸……

「ああ……鬼利丸か！」

よつやく誰か分かつた！ と顔に示す。

「いま」「うかよ！ たく……まあいい！ ちよいと騒がしくやりすぎたよ」

……くるわー！」

ドタドタドタ……

100人はいるだろ」

全員が剣や弓などの武器を持っている。

「なんてい。100人ポツチか……」

鬼利丸がつまらなそりに言ひ。

「全部俺がやる……と言ひてえことだが……あいにく鬼棍棒がとられちまつてらあ」

「やくたたず……」

ボソソッとつぶやいた

「つるつせぞ！　だいたい誰のせいでこんなことになつてんのかわかつてんのか！？」

おつときこえてしまつたか。

だが確かに鬼利丸のせいではないな……仕方ない。

「今回の任務、死者をだすな、とはいわれてないよな？」

「ああ。存分に暴れていいはずだ」

鬼利丸の返事を聞きうれしくて口元が緩む。

「そりか……」

H?11e ?cole Flamme (地獄、消えない、炎)

ルーンを唱え終わった。同時に田の前にあつたはずの人影がきえた。だ消えない炎があつた。

敵を殺した伊明鑄虞の顔は笑っていた。

とても満足そうに……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1286z/>

俺の夢は魔法使い

2011年12月5日20時15分発行